

なかはら じろう
中原 二郎さん

JICA 海外協力隊 2001 年度 1 次隊

派遣国：パプアニューギニア 職種：コンピューター技術

2022 年 4 月 10 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています



「仲間」理解し課題解決

青年海外協力隊として、パプアニューギニアに旅立ってから 20 年がたった。

2001 年 8 月、ミルンバイ州立アロタウ病院にシステムエンジニア隊員として赴任し、同国初となる医療カルテ管理システムの開発に従事した。異文化を理解し、彼らの懐に入っていく、彼らの「仲間」として共に課題解決に尽力する経験は、国内では得がたい経験であった。

こうした青年海外協力隊事業に魅力を感じ、その後、同事業の支援要員・ボランティア調整員としてシリア、イエメン、ソロモン諸島、スリランカ、ラオス、ガーナで業務に従事してきた。

一般の方に調整員の仕事について聞かれるとき、「協力隊員の先生のようなもの」と答えている。これまで数百人の協力隊員に関わってきた。学校の教員、社会起業家、弁護士、地方創生の担い手、外国人労働者や社会的弱者の支援者などとして、多くは帰国後も国内の社会課題解決にさまざまなかたちで関わっている。

私自身も隊員と調整員の経験を経て、3 月まで広島市立大大学院に籍を置き、紛争地における予防外交や平和構築等を中心に平和学研究を行ってきた。2 年 8 ヶ月駐在した中東のシリアでいずれ復興支援に携わりたいとの思いから入学した。

世界や国内の課題を人ごとではなく「ジブンゴト」として捉える力、^{ふかん}俯瞰的に物事を捉える力、他者への寛容や理解といった力を会得した元協力隊員たちは、これからも国内で、世界で活躍していくと期待している。



パプアニューギニアでお世話になった人たちと